

【1】 陰陽道史のなかの近世

(1) かつては古代陰陽道（特に平安時代）が中心であったが、中世、近世の陰陽道の研究が飛躍的に進む（『新陰陽道叢書』2020~2021年、『陰陽師とは何者か』2023年）。古代・中世の陰陽道の延長線、その復興として考えることはできない。むしろ断絶があって近世的な本所・本山・頭支配という身分集団の形成の契機を前提。土御門家の陰陽師支配。職札（免許）の授受。

(2) 古代の改暦と近世の改暦。古代の改暦の延長線ではなく、近世の社会的条件をふまえた改暦が行われた。①海外との交渉、文物の伝播。②中央集権の権力。③社会的な需要。

(3) 近世の改暦

①西洋・中国・朝鮮の天文学・暦学の伝播。マテオ・リッチの「坤輿万国全図」、アダム・シャルルの「崇禎暦書」。中国の授時暦。朝鮮の「天象列次分野之図」など。地球儀、望遠鏡などの儀器。西洋の科学革命の波がイエズス会宣教師の手をへて、日本にまで伝わった。

②武威から文治へ。保科正之、山崎闇斎、將軍綱吉は儒学信奉者。王者の「観象授時」。改暦を自律的に行うことによって近世日本は、華夷変態以後の小中華主義の文明国家の衣をまとった。

③暦の全国統一がもたらしたもの。農業、漁業、商業、運輸、政治などあらゆる分野に及んだ。暦の最大の産地は伊勢山田。外宮は豊受大神（食物・農業の神）を祀る。「八十八夜、式百十日などの小書は伊勢暦の規模にて兼て諸国百姓中心ニ相叶申議御座候」（貞享2年の山田三方の願書）

【2】 改暦の意義

中国 王朝 改暦年	日本 改暦年 暦法 時代
前漢	B.C.
後漢	A.D. — 100
	— 200
六朝	— 300
445	— 400
	— 500
隋	690 元嘉・儀鳳 飛鳥 — 600
729	— 700
唐	764 大衍 奈良 — 800
762	— 800
822	858 五紀 平安 — 900
	862 宣明 — 900
五代	— 1000
宋	— 1100
	— 1200
元	鎌倉 — 1300
	— 1400
明	室町 — 1500
	— 1600
	1685 貞享 — 1700
清	1755 宝暦 江戸 — 1700
	1798 寛政 — 1800
	1844 天保 — 1800
	1873 グレゴリオ 明治 — 1900

中山茂『日本の天文学』を一部改変。

- (1) 遣唐使の時代と近世に改暦が集中。古代では暦名は中国暦そのまま。近世では元号による。
- (2) 渋川春海 (1639~1715) ①国産へのこだわり、中国への異常な反発「西国」、②神武天皇が古暦を作ったが、中国暦が伝来して失われた。「日本長暦」

春海『蝕考』の一覧

年月日	宣明暦	授時暦	大統暦	実際の食分
1673. 6. 15	月食4分半	無食	無食	無食
1673. 7. 1	日食2分半	無食	無食	無食
1674. 1. 1	日食9分	無食	無食	無食
1674. 6. 14	月食14分半	月食10分 内9分	月食10分 内9分	食分1.07(1)
1674. 12. 16	月食皆既	月食皆既	月食皆既	食分1.63(2)
1675. 5. 1	日食3分弱	無食	無食	食分0.136(3)

※「実際の食分」の数値について、(1)(2)は渡辺敏夫『日本・朝鮮・中国日食月食宝典』、(3)は国立天文台暦計算室「暦Wiki渋川春海と貞享暦」による。

- (3) 春海の観測儀器 = 渾天儀、圭表、百刻環。
- (4) 寛政改暦の観測儀器 = 子午線儀、象限儀、垂揺球儀 ← フェルビースト「霊台儀象志」

【3】游子六「天経或問」の影響

- (1) 西洋天文学の地球円体説、太陽系図 (特に太陽、月、地球)、日蝕・月蝕の仕組み、近日点。
- (2) 西川正休の訓点本が作られてベストセラー。太陽暦の優秀さも説かれる。三次元的な世界を図解できた点。
- (3) 「天経或問」への学僧の反発。梵暦運動。須弥山説の正当性を強調。仏陀の目 (天眼) で見れば、須弥山説は見える。円通の「仏国曆象編」
- (4) 太陽、地球、月がどのように生成したのか。古事記、日本書紀をもとに宇宙の生成を解き明かす。平田篤胤「霊の真柱」

【4】近世の天文学思想の展開

- (1) 幕府天文方 = 造暦、改暦。
- (2) 陰陽頭であった土御門家。地方暦算家とネットワークとつながり。
- (3) 梵暦運動 = 西洋天文学への反発。須弥山説の復活。
- (4) 国学 (本居宣長、平田篤胤) = 西洋天文学と整合性のある記紀研究。